

NERIMA
ART
MUSEUM
NEWS

2017

練馬区立美術館
ニュース

練馬区立美術館
NERIMA ART MUSEUM

21

CONTENTS

- 03 — 練馬区70周年を機に、一層の飛躍を
- 04 — Museum Calendar
- 06 — 展覧会紹介
- 12 — 教育普及事業のご案内
- 14 — 2015年度新収蔵品紹介
- 19 — 所蔵作品目録紹介
- 20 — 公募展のご案内
- 21 — 貸出施設について
- 22 — 施設案内
- 23 — 交通案内

練馬区70周年を機に、一層の飛躍を

練馬区立美術館は1985年10月に開館、32年目を迎えています。日本の近・現代美術を中心に176の企画展を開催、最近は近世、西洋にも触手を伸ばしています。コレクションも寄託を含め7000点の重厚・軽妙・多彩な布陣となっています。

開館30周年の一昨年には、「小林清親（版画・肉筆画）」「舟越保武（彫刻）」「アルフレッド・シスレー（印象派）」「歌川国芳（浮世絵）」展を開催、過去最高の14万人のお客様にお越しいただきました。とりわけ、舟越保武展には皇后陛下のご行啓を仰ぎ、各方面から注目されました。

昨年も「横井弘三の世界」「しりあがり寿の回・転・展」「朝井閑右衛門」「粟津則雄コレクション」「田沼武能肖像写真」展などユニークなラインナップでのぞみました。開館以来の「お蔵出し！練馬区立美術館コレクション」展も開催しました。

「幻想美術動物園」をテーマに生まれ変わった、隣接する「美術の森緑地」は年間延べ80万人の方々にご利用頂き、活況を呈しています。

本年（2017年）は練馬区独立70周年にあたります。「19世紀パリ時間旅行—失われた街を求めて」「生誕150年記念 藤島武二」「没後20年 麻田浩」「レイモン・サヴィニャック」（パリ以外は仮称）を予定、開館30周年を上回る賑わいを画策しています。2019年には改修・拡張工事を予定、2020年リニューアルオープンを目指しています。

美術館長は2017年3月末で退任することになりました。

就任以来、まる7年「ときめきの美 いま 練馬から」をモットーに「新しく、珍しくて、面白い」様々な事業に取り組んで参りました。お蔭様で、「斬新な視点・切り口で、独自性を追求し、旬の輝きや新たな美の発見を提唱し続ける美術館」として、一定の評価を得てきているように思います。

「報恩謝徳」という言葉があります。皆さんから頂いた「恩」に報い、「徳」に感謝するというものです。「いまをときめく、こころときめく」美術館として、一層の飛躍を願うばかりであります。ありがとうございました。

2017年3月

練馬区立美術館 館長 若林 覚



MUSEUM CALENDAR

2階 展示室 1

2017 4

5

練馬区独立70周年記念展
19世紀パリ時間旅行 —失われた街を求めて—
2017年4月16日[日]～6月4日[日]

6

7

漆の画家 太齋春夫展(仮)
2017年6月9日[金]～7月14日[金]

2

8

9

練馬区独立70周年記念展
生誕150年記念 藤島武二展
2017年7月23日[日]～9月18日[月・祝]

10

11

練馬区独立70周年記念展
没後20年 麻田浩展 —静謐なる楽園の廃墟—(仮)
2017年9月28日[木]～11月19日[日]

12

2018 1

2

小野木学の絵本原画展(仮)
2017年11月26日[日]～2018年2月11日[日・祝]

5

3

4

練馬区独立70周年記念展
レイモン・サヴィニャック展(仮)
2018年2月22日[木]～4月15日[日]

3階 展示室 2・3

1

第63回 練馬区美術家協会展 2017年6月9日[金]～6月18日[日]

3

4

練馬区中学校生徒作品展 2018年1月13日[土]～17日[水]

練馬区小学校連合図工展 2018年1月20日[土]～25日[木]

練馬区小中学校連合書きぞめ展 2018年1月27日[土]～28日[日]

第49回練馬区民美術展 2018年2月3日[土]～2月11日[日・祝]

6

練馬区独立70周年記念展

19世紀パリ時間旅行 — 失われた街を求めて—

会期：2017年4月16日[日] — 6月4日[日]

フランス文学者の鹿島茂氏(明治大学教授)による「失われたパリの復元」(『芸術新潮』連載)をもとに、「19世紀の首都」パリの全体像に迫る展覧会を開催します。

パリの長い歴史の中で、もっとも衝撃的な出来事が第二帝政期(1852-70)に行われたパリ大改造です。しばしば「パリの外科手術」とも呼ばれるこの大改造は、時の皇帝ナポレオン3世(1808-73/在位:1852-70)の肝いりで、1853年にセーヌ県知事に就任したオスマン男爵(1809-91)によって着手されました。都市としての基本部分こそ大きな変化なく引き継がれましたが、この大改造によってパリの景観は様変わりします。

1870年代に入り、大手術を経たパリの景観は、印象派をはじめとした画家たちの格好の題材となりました。それは新しいパリが、同時代の芸術家たちにとって創作の源泉と成り得たことを意味しており、言い換えれば、近代都市の成立は近代美術の形成とも連動していると指摘できるでしょう。

本展では、大改造によって失われたパリの路地風景を版画におこしたアドルフ・マルシアル・ポテモンの『いにしへのパリ』(1866年)をはじめ、絵画や衣装など多様な美術作品を通して、パリの歴史を辿り、大改造以前・以後のパリを紹介します。

(共催：毎日新聞社)

観覧料：一般 800円

2

漆の画家 太齋春夫展(仮)

会期：2017年6月9日[金] - 7月14日[金]

太齋春夫(1907-44)は、仙台市長町に生まれ、1932年(昭和7)、東京美術学校図画師範科を卒業しました。在学中より二科展に油彩作品を出品していましたが、美術学校教授であった漆芸家六角紫水のすすめをうけて、1933年(昭和8)、台湾総督府殖産局嘱託となり、ここで漆の研究に没頭します。翌年には、強度の高い漆膜の技法を開発し、工芸品の製作のみならず、純粋美術の領域である漆絵にも果敢に取り組みました。

1939年(昭和14)には、ニューヨーク万国博覧会にこれまで培った技法を活かし漆器の衝立を出品し、賞賛を博しました。将来を嘱望された太齋でしたが、1943年(昭和18)に応召を受け、翌年、中国の湖南省平江県において帰らぬ人となります。

工芸と美術の間をぬって活躍した太齋の活動は、昭和の美術の動向に新たな光を投げかけるものです。しかし、若くして亡くなったということもあり、残念ながらこれまでほとんど彼の活動については知られておりません。

練馬区立美術館では、2015年度に、ご遺族より太齋の作品・資料をあわせて100件以上のご寄贈を受けました。本展ではこれらの作品・資料を中心に、漆の画家太齋春夫の画業の一端をご紹介します。

※会場は2階展示室のみ 観覧料：300円

3

練馬区独立70周年記念展

生誕150年記念 藤島武二展

会期：2017年7月23日[日] - 9月18日[月・祝]

藤島武二は1867年(慶応3)、薩摩藩士の3男として鹿児島県に生まれました。17歳で上京、川端玉章、山本芳翠らの画塾に学び、三重県津市で中学校教員を3年間務めたのち、1896年(明治29)、黒田清輝の推薦で東京美術学校西洋画科の助教授に就任します。その後、晩年まで、白馬会や文展、帝展を舞台に話題作を発表し続けると同時に、アカデミズムの柱石として多くの後進を育てました。一方で、1913年(大正2)に初めて韓国を訪れて以後、東アジアの事物を意図的に取り上げるようになり、こうした新たな視点が画壇に大きな影響を与えました。皇室からの揮毫依頼、第1回文化勲章受章など、まさにわが国を代表する洋画家として活躍しました。

また、藤島は日本近代洋画の牽引者として近年高く評価されています。これは、青年期まで日本画や禅の思想を修養して東洋美術を血肉化し、それが土台となったこと。ヨーロッパ留学が黒田清輝より20年余りも遅れたため、ポスト印象派やフォーヴィスムの洗礼を受けて帰国しえたこと、また、その雄渾な作風、魅力的な人柄から多くの弟子たちに慕われ、有島生馬、佐伯祐三、小磯良平、猪熊弦一郎など、次世代の画家たちに多大な影響を与えたことなどが挙げられます。

本年は、藤島武二の生誕150年という記念の年に当たります。今回の展覧会では、雑誌の挿絵や書籍の装幀などの業績を通して明治浪漫主義との関わりにもスポットを当て、また、初公開となる作品や資料を紹介し、藤島芸術の裾野の広さを再検証します。

(共催：東京新聞)

巡回：鹿児島市立美術館、神戸市立小磯記念美術館

観覧料：一般1,000円

4

練馬区独立70周年記念展

没後20年 麻田浩展 — 静謐なる楽園の廃墟 — (仮)

会期：2017年9月28日[木] - 11月19日[日]

麻田浩(1931-97)は日本画家、麻田辨次を父に持ち、兄、鷹司(1928-87、2000年に当館で回顧展を開催)も日本画家という美術家の一家に生まれました。同志社大学経済学部に入學するものの、画家への道は捨てきれず、新制作協会に出品、在学中に初入選を果たします。

1971年、39歳のときにパリに渡り、渡欧前より傾倒していたシュルレアリスムから、より幻想的な風景画に、そして生涯を通して描く“水滴”のモチーフが画中に現れてきます。ヨーロッパ滞在期には主に版画に軸を置き、カンヌ国際版画ビエンナーレでグランプリを獲得するなど、フランス・ドイツ・ベルギーなどで個展を開催。また、滞欧中も新制作展や安井賞展などに大作を出品し続けていました。

1982年、50歳で帰国。京都に戻り、京都市立芸術大学西洋画科の教授を務めながら、水滴や羽根などの自然物を配した「原風景」とともに、「原都市」と名づけられた美しき廃墟空間を描き続けました。1995年には京都市文化功労者となり、同年に第13回宮本三郎記念賞を受賞するなど活躍を続けていましたが、1997年、65歳で自ら命を絶つこととなります。

本年は麻田が没して20年という記念の年にあたります。初期から晩年まで、約120点の油彩、版画作品を通し、麻田の画業を振り返る展覧会です。

(共催：日本経済新聞社)

観覧料：一般800円

5

小野木学の絵本原画展(仮)

会期：2017年11月26日[日]－2018年2月11日[日・祝]

小野木学(1924－1976)は、その人生の半分以上を練馬区で過ごした地域ゆかりの人物であり、当館所蔵作家の中で最も所蔵点数が多い画家でもあります。

東京都豊島区に生まれた小野木は、旧制中学在学中に肺を病んだことから、23歳頃画家として生きる道を意識するようになりました。独学で絵画を学び、1953年自由美術展へ油彩画を初めて出品。以後自由美術展やアンデパンダン展などで活躍しました。一方1960年代から児童書や絵本への挿絵の仕事も多く、1970年には第19回小学館絵画賞(現・小学館児童出版文化賞)を受賞しています。現在も出版されている創作絵本『かたあしだちょうのエルフ』は、71年の青少年読書感想文全国コンクール課題図書にも選ばれています。

これまでも当館では、小野木の様々な仕事に焦点を当てた展覧会を開催してきました。没後20年の回顧展「小野木学の世界」(1986年)をはじめ、晩年のパステル画を中心に紹介した「ナヤミノタネ」展(2009年)など、常設の特集展示も含めると6回を数えます。今回は当館所蔵の挿絵や絵本原画と書籍を中心に展示し、その仕事を改めて問う試みです。版画や油彩、ペン画やコラージュなど様々な手法で繰り広げられる小野木の表現の幅をご覧いただくと共に、日本の創作絵本の創世記であった1960～70年代の出版界の一端も垣間見ることが出来る内容となります。

※会場は2階展示室のみ 観覧料：無料

6

練馬区独立70周年記念展

レイモン・サヴィニャック展(仮)

会期：2018年2月22日[木] - 4月15日[日]

フランスを代表するポスター作家であるレイモン・サヴィニャック(1907 - 2002)の回顧展を開催します。

サヴィニャックは、第二次世界大戦後、フランスにおけるポスターの伝統であった装飾的な様式を一新し、ユーモアとエスプリにあふれ、瞬時に人の心を射抜くスタイルを編み出しました。インパクトがあり陽気でシンプルなポスターは人気を集め、シトロエン、ミシュラン、モンサヴォン、ロレアルなど多くのフランスの広告主がサヴィニャックを起用し、街はサヴィニャックのポスターで溢れました。日本でも、その評判を聞きつけた広告主が、ポスターを依頼しています。

本展では、フランスのフォルネイ図書館のコレクションを中心に、大型ポスター、写真、資料などを含む200点近いサヴィニャックの作品群を一同に展覧します。併せて、サヴィニャックのポスターが写っている当時のパリの写真や書簡なども紹介し、ポスターというメディアを操った魔術師サヴィニャックの魅力を紹介します。

(共催：美術館連絡協議会、読売新聞社)

巡回予定：宇都宮美術館、三重県立美術館、兵庫県立美術館、広島県立美術館

観覧料：一般 800円

教育普及事業のご案内

美術館の核となる、展覧会及び所蔵品への理解を深め楽しむために、様々な入口をご用意しています。子どもから大人の方までふるってご参加ください。

※ギャラリートーク、ロビーでのコンサート・パフォーマンス以外は、ほとんどが事前申込制です。

※各事業の詳細は、ねりま区報および美術館ホームページに掲載します。

また図書館などの区内施設にてチラシを配布しています。

① 展覧会関連事業



「ギャラリートーク」

担当学芸員やゲストが展示室を回りながら展示作品についてお話しします。

「コンサート」

ロビーには1877年製のスタインウェイ社のピアノがあり、展覧会に合わせたコンサートが開かれます。



「実技講座・ワークショップ」

展覧会に合わせて絵画や彫刻など本格的な作品作りに取り組みます。



鑑賞プログラム「トコトコ美術館」

(3～6歳の未就学児+保護者対象)

テーマに合わせた作品鑑賞と絵本の読み聞かせ、工作をします。
初めての美術館体験に！

②

美術講座



「美術講座」

展覧会関連以外で美術に関する知識や技術を学ぶ講座です。実技と講義があります。

③

美術館を楽しむワークショップ

「四季のみじたく」

ものづくりに関わる作家さんをお迎えし、次の季節を考えながら制作します。写真は蠟引き紙作りです。



④

スクールプログラム

① 団体鑑賞 ② 施設見学 ③ 職場体験 ④ 出張プログラム

内容に関してはその都度ご相談させていただいています。

2016年度は 28校 41回実施しました。

※展示替え期間及び当館主催のイベント開催日にはお断りする場合があります。



美術館サポーターの活動

現在 45 名がサポーターとして活動しています。

主な活動は、美術関連記事の新聞切抜き、イベントの会場受付、サポータートーク、ねりまゆかりの作家調べなどです。

所蔵作品目録紹介

2015年度に開館30周年を迎えた練馬区立美術館のこれまでの歩みを示すべく、昨年度に全所蔵作品2596点のデータをまとめた所蔵作品目録を刊行いたしました。また、2014・2015年度にご寄贈いただいた仏文学者粟津則雄氏の全コレクションをまとめた目録も刊行しましたので、あわせてご紹介いたします。

今後も所蔵作品の調査研究を継続し、展覧会などで研究成果の公開をすすめていきます。



『練馬区立美術館所蔵作品目録』

判形：A4変形 頁数：254頁
発行日：2017年2月
価格：3,000円

『粟津則雄コレクション目録』

判形：A4変形 頁数：84頁
発行日：2016年11月
価格：1,200円

粟津則雄「想い出さまざま」、
「粟津則雄自筆譜」所載



公募展のご案内

日頃の創作活動の成果を発表する場として、毎年1回「練馬区民美術展」を開催しています。

11月に出品者を募集しますので、出品をご希望の方は、11月1日号のねりま区報に掲載の応募方法または区民美術展応募チラシ、当館ホームページをご覧ください。

第49回練馬区民美術展

会期

2018年2月3日(土)～11日(日・祝)

応募資格

区内在住(または在勤・在学)の15歳以上の方(中学生は不可)

募集作品について(予定)

洋画(油彩、水彩、アクリル、パステル、版画など)

日本画(水墨など)

彫刻・工芸(漆芸、陶芸、染織、和紙絵、押し花絵、切り絵など)



過去の展示風景

貸出施設について

皆さんに美術に対する理解を深め、発展させ、さらに主体的にご参加いただくため、館内の施設を貸出しています。

ご利用になる施設によって、申込方法が異なります。詳しくはお問い合わせください。

区民ギャラリー

美術作品の展示発表を目的とする個人、サークル等に貸出します。

1日を単位として、連続6日まで利用できます。(展示・撤去作業の時間を含む)

※ 2017年度の企画展示室の貸出期間は、6月27日(火)～7月14日(金)、および11月26日(日)～1月11日(木)の予定です。

名称	面積	使用料	貸出条件
2階 一般展示室	85.5㎡	4,000円/日	
3階 企画展示室Ⅰ 企画展示室Ⅱ	200㎡ 208㎡	16,000円/日 (2室分)	企画展示室Ⅰ・Ⅱは、 両室利用が原則

創作室

美術作品の創作・研究・学習活動を目的とする個人、サークル等に貸出します。

午前・午後を単位として、1ヶ月に4枠まで利用できます。

名称	面積	定員	利用時間	使用料	貸出備品・器具など
2階 創作室	111㎡	30名	午前 10:00～13:00	1,200円	作業台、スツール(椅子)、 イーゼル、ホワイトボード、 プレス機、石膏モデル 等
			午後 14:00～18:00	1,600円	

※ 練馬区長が認める生涯学習団体は、使用料減免制度に基づき50%減額します。



一般展示室



創作室

施設案内

開館時間 10:00 ~ 18:00 (入館は17:30まで)

休館日 毎週月曜日 (ただし、月曜日が祝休日の場合は開館し、翌平日休館)
年末年始 (12月29日~1月3日)
展示替えなどによる準備期間中

観覧料 展覧会により異なります。
詳しくは各展覧会ページをご覧ください。
なお、いずれの展覧会も、中学生以下および75歳以上の方は無料でご覧いただけます。(年齢等の確認できるものを提示した場合に限る)

図録の販売 展覧会に合わせて作成した図録は、2階「図録・グッズコーナー」で販売しております。ご来館の難しい方は、通信販売の取扱いもございますので、お問い合わせください。

バリアフリー

- ・当館の展示室は2階・3階にあります。館内にはエレベーターを設置しております。
- ・誰でもトイレを設置しております。
- ・障害をお持ちの方は、当館のご利用に限り駐車場をお貸しできます。(事前予約制)
- ・館内で利用いただける、車椅子・ベビーカーを用意しております。(数に限りがあります)
- ・授乳用に部屋を用意いたします。お気軽にお声がけください。

その他の施設

- ・喫茶コーナー (2階ロビー)
サンドイッチなどの軽食とドリンクの販売を行います。
※土日祝日のみの営業となります。
- ・貫井図書館 (1階)
練馬区立美術館で開催された展覧会図録はもちろんのこと、これまでに行われた日本の近現代美術の展覧会図録や関連書籍など、美術に関連する書籍を多数取り揃えています。
- ・美術の森緑地
美術館の前庭にあたる「練馬区立美術の森緑地」には、幻想美術動物園をコンセプトに、カラフルな動物を中心とした20種類32体の彫刻が設置されています。

交通案内

鉄道 西武池袋線「中村橋」駅下車 徒歩3分

池袋駅から——16分(西武池袋線各停利用)

渋谷駅から——約30分(東京メトロ副都心線内急行《西武池袋線直通》利用)

有楽町駅から——約40分(東京メトロ有楽町線《西武池袋線直通》利用)

六本木駅から——約40分(都営大江戸線利用、練馬駅で西武池袋線乗換)

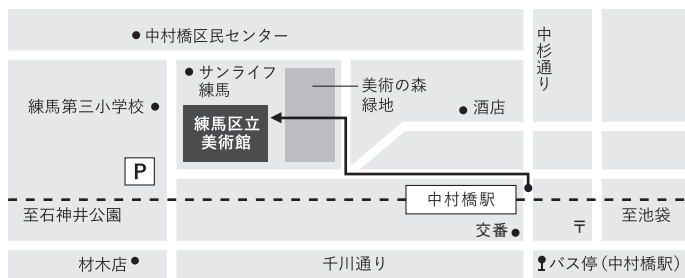
バス 関東バス「中村橋駅」停留所下車 徒歩5分

阿佐ヶ谷駅北口——中村橋駅《阿01》系統終点

荻窪駅北口——中村橋駅《荻06》系統終点

荻窪駅北口——練馬駅《荻07》系統「中村橋駅」下車

都心からも
意外に近い!



※駐車場はございません。美術館周辺のコインパーキング(有料)をご利用ください。

※障害者用の駐車場については、直接お問い合わせください。

ときめきの美 いま 練馬から



練馬区立美術館
NERIMA ART MUSEUM

〒176-0021 東京都練馬区貫井1-36-16 TEL: 03-3577-1821

<http://www.neribun.or.jp/museum/>

(公益財団法人練馬区文化振興協会が練馬区立美術館の管理運営を行っています)

練馬区立美術館ニュース 第21号

発行: 練馬区立美術館 発行年月日: 2017年(平成29)4月1日

印刷: 山田写真製版所 デザイン: 星野哲也

